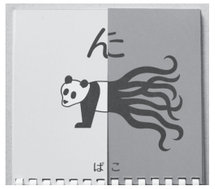
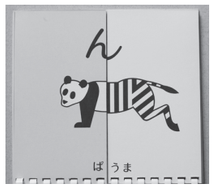
四川省臥龍パンダ保護研究センターでの取材は小雪の中行われた。撮影＝桑山一弥2008

動物保護のパンダ

桑山弥三郎

シンボルの源泉⑤





絵本「ふしぎなどうぶつ」桑山弥三郎1977

野生動物基金 アメリカ Laus Bouthillier 1960

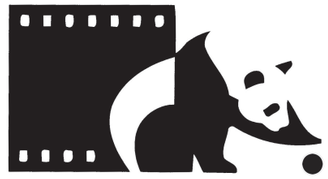


写真 カナダ Leslie Easterbrook 1990

広告 アメリカ Tim Fisher 1993

製靴 イギリス F.H.K Henrion 1948

食品 アメリカ Michalina Cieslikowsko 1991

ホテル Connie Beck 1983

今年(2008)4月末に上野動物園でパンダのリンリンが死亡した。多くの人々に愛され、子供たちが毎日列をつくり花をたむけている姿をテレビで見た。幸い中国の国家主席が5月初めに来日した際、パンダを上野動物園に貸し出すと約束したという。

パンダの存在が世界に広まったのは19世紀後半

珍獣としてもてはやされているパンダは世界に800頭といわれ、世界自然保護動物に指定されている。いまだこの動物については知られていないことが多い。

世界に存在が知られたのは1869年3月。フランス人宣教師が中国四川省に入り、地主の家でパンダの毛皮を見る。彼は生きたパンダを見たいと思い、地元の人々の協力を得て探したが見つからず、毛皮と骨をヨーロッパに送り、「ジャイアントパンダ」と命名したという。その後ヨーロッパ人とアメリカ人によって四川省奥地まで捜索され、何頭かを捕らえることができた。現在、生息地は禁猟保護区として輸出を禁止している。飼育センターで人工繁殖に力を入れ、世界中が注目している。

パンダが「かわいい」理由と魅力的な点

パンダは大勢の人に感動を与え、「かわいい」といわせるのはなぜか。全体のからだつきが丸く、ぬいぐるみのようだからだ。飼育係によると、人間の幼児のように丸々していて、成長してもこの丸みを失わず、また動作も人間の子供によく似ているという。手を使って竹や笹を食べる姿や、地面にお尻をつき両足を投げ出して人間のような格好をする。手足を丸めてまん丸になって眠る。片手で目を隠すようなしぐさをする。木登りが大好きで、高いところまで登ると降りられなくて、うろうろしたあげく、どすんと落ちてしまうという不器用なところもある。頭が大きく、歩く時は上下にゆれる。足が短いのでお尻が大きく左右に振れて、ユーモラスな姿になるという。野生動物といっても肉食をしないので、他の動物や人間を襲うことはない。捕獲のときも少しも抵抗しない。無害で愛すべき動物で、動物園で人気者になっている。私はパンダの魅力は形と色にあると思う。白くて丸い大きな頭に、黒い丸目と鼻と耳。白いお腹に黒い手と足。この動物を創造した神は偉大なデザイナーであるといえる。このような動物を見る時、啓示4:11を思い浮かべる。「神よ、あなたは栄光と誉れと力を受けるにふさわしい方です。あなたはすべてのものを創造し、あなたのご意志によってすべてのものは存在し、創造されたからです」。

四川大地震によりパンダの里は大被害

息子がパンダの取材に四川省に出かけたのは今年2月末。5月12日午後、四川大地震が起き、多大な人や家が失われた。朝日新聞によると、この地震で四川省自然保護区にあるパンダ保護研究センターから3頭のパンダが逃げ出し、行方不明になっている。管理局職員5人が死亡。えさ不足も深刻で、別の施設からタケノコを送るなど対応に追われている。同センターは中国最大のパンダ飼育の拠点として知られる。飼育小屋32ヵ所のうち14ヵ所が全壊。ほかの小屋も被害を受けた。ほかに逃げたパンダは職員が捕獲した。パンダ繁育研究基地はパンダの繁殖や生態研究のため、50頭余りを飼育している。被害前は1日3000〜8000人の観光客が訪れる人気だったが、余震が続くなか、人の姿はまばらなようだ。地震当日、激しい揺れが襲った最中、赤ちゃんパンダのミルクの時間だった。哺乳瓶が床に落ち中身がこぼれ、赤ちゃんパンダはあわててオリの上へよじ登った。一方大人のパンダは監視モニターで確認したところ、揺れの間も平然とえさを食べたり眠ったりしていたという。

パンダのシンボルは他の動物より少ない

少ない理由は世界に知られたのが遅く、古い紋章には採用されていない。また数が減少しているため、普通動物園では見ることができなく親しみがない。パンダのイメージは、かわいい、子供らしい、遊園地、動物園、動物保護、中国など。業種には子供用品、コンピュータ関係、広告業、不動産など。

タイトル：漢字タイポス 412
本文・キャプション：漢字タイポス 45